

進む高等学校と企業の連携

今回は、静岡県内の高等学校（以下、高校）と企業が連携した取り組みをご紹介します。

広がる高校と企業の取り組み

高校と企業が連携する事例が増えている。2022年度から、高校は、激しい時代の変化に対応できる生徒の育成を目的とした「総合的な探究の時間」が本格的にスタートした。生徒自らが課題を発見し、その解決策を立案するもので、まちづくりなど地域を題材にした取り組みが推奨されている。企業にとっても、目に見える地域貢献となるほか、高校との取り組みはメディアに取り上げられるケースも多く認知度向上の期待もある。

静岡県立熱海高等学校×パン樹久遠（熱海市）

国内栽培発祥の熱海レモンをスコーンに高校生と地域を盛り上げる想いを共有

熱海高校は、観光地「熱海市」における唯一の高校。これまでも宿泊施設を1館まるごと生徒が運営する「高校生ホテル」に取り組んできたが、観光地としての新たな魅力開拓も必要と考え、同市が国内栽培の発祥の地とされる「レモン」のブランド化を計画した。

まず、レモンの栽培農家が市内に2軒しかないことから、植樹を展開。地域の小・中学校や学校までの通学路、リゾート施設「PICA初島」に苗木を植樹し、栽培に取り組む。次に、商品開発に

も着手。授業で交流のあった熱海駅前仲見世通り商店街のベーカリー「パン樹久遠（株）久遠」に協力を依頼した。同社の武山社長は熱海市出身であり、商店街の役員も務めることから、高校生の「地域を盛り上げたい」という想いに共感。商品のコンセプトづくりや最初の試作は生徒が中心になって行った上で、社長も学校に赴き製品化を支援、蜜漬のレモンを生地に練りこんだスコーンが完成した（写真1）。生徒により「純情熱海檸檬」と名付けられた同商品は、2020年10月に1個220円（現在は230円）で販売が開始され、「パン樹久遠」の定番商品となっている。武山社長は商店街の近隣店舗などにも声を掛け、連携の輪を広げようとしている。さらに学校側も、「企業との取り組みは、通常の授業よりも生



静岡銀行

徒の主体性が発揮されるとともに、教員も企業との接点ができ、視野を広げられる」として、取り組みを評価している。



▲写真1 専門家の助言を受けて開発したレモン香るスコーン

静岡県立駿河総合高等学校×(株)静鉄リテイリング(静岡市) 生徒のアイデアをカフェのメニュー開発に生かす 企業は若手社員の育成機会として活用

駿河総合高校(静岡市)は、地域とのつながりを意識した活動に力を入れており、2021年度

からは、3年生の「課題研究商業」の授業の一環として、静岡県中部地域で交通事業を展開する静岡鉄道(株)のグループ会社である(株)静鉄リテイリングと、高校生のアイデアと感性を生かした製品づくりやワークショップを実施している。2020年に高校生を対象とした静岡市主催のイベントに参加した際、地域貢献を考えていた同社から声を掛けられたことが、連携のきっかけとなった。同社は、県内のサービスエリアの売店やハンズ静岡店の運営を担っている。

2022年度は、(株)静鉄リテイリングから派遣された社員による講義やグループワークへの支援を通じて、茶室と日本庭園が人気の観光施設「玉露の里」内にあるカフェ「うさぎの隠れ家」(同社運営)のメニュー開発をテーマに取り組んだ。SNSで流行していたアフタヌーンティーを楽しむ「ヌン活」に着目する一方、お茶離れが進む若者向けに急須で入れる緑茶を楽しむメニューができた(写真2)。1日6食限定(事前予約制)、価格は2,200円(税込)と高価ながらも、高校生が考えた食事内容やデザインが評判となり、同社のインスタグラム投稿の「いいね」獲得数は過去最多を記録し、販売期間を延長するほどの好評ぶりとな

った。

学校側は、企業との連携を通じ、原価計算など小売業の現場を深く知ることができることを評価する一方、同社でも、「授業の講師に若手社員を抜擢することで、社員の成長につながる」としており、「今後も高校との協働活動を継続していきたい」と話す。



▲写真2 うさぎの隠れ家のコンセプトに合わせた和洋の食材が並ぶ(写真:株静鉄リテイリング)

浜松学芸中学校・高等学校×白井商事(株)(浜松市)

浜松注染浴衣のフォトブックを制作 若者世代の地場産業への興味関心を高める

浜松学芸高校は、生徒の個性を形にする教育

に力を入れており、「地域を学びに変える」ことを目標に掲げ、地域の企業と協働する場を設けている。その活動の1つに、浴衣の染め物技法である「浜松注染そめ^{ちゅうせんそめ}」を手掛ける浴衣メーカー、白井商事(株)とのプロジェクトがある。同社は、文化祭で



▲写真3 生徒がモデルとなり、浴衣の“着姿”を美しく表現したポスター
写真:白井商事(株)、撮影:撮影モデル:浜松学芸高校 社会科学部地域調査班

浴衣をレンタルしたことを契機に同校と接点ができ、「地元の子が知っているからこそ地場産業といえる。注染浴衣という地場産業を若い世代に知ってもらいたい」(専務取締役の白井成治氏)との想いで、同校にフォトブックとポスター制作を依頼した(写真3)。

生徒たちは、初めての浴衣撮影に戸惑いながらも、着用姿がイメージできるようにしたいという同社のオーダーに応えるべく、自身がモデルとなり、撮影場所やポーズ、シチュエーションを工夫。撮影後の編集会議では、浴衣の柄名と添える

キャッチコピーなども生徒が考え、若い世代が着てみたいと思える場面を意識した内容に仕上げた。フォトブックは、同社が取引先へ渡すカタログとして活用されており、評判も上々だ。この企画以降も同社は継続して制作を依頼しており、他にも生徒による注染そめ

の生地を使用したオリジナルシャツブランドの制作や創作盆踊りイベントの開催など、連携の幅を広げている。

教育とビジネスの違いを 考慮し連携を

高校と企業との連携のポイントは、両者の立場・考えの違いを認識することである。高校は教育を目的とし、授業の時間割をベースに計画を立てる一方、企業側は、迅速な製品化や一定の販売実績を求める傾向にある。企業は、こうした連携事業を、当初から社会貢献の一環として認識した上で取り組む必要がある。また、学校側は毎年生徒が代わるため、継続して連携していくには、特定の教員やクラスと付き合うだけでなく、学校側と幅広い関係を構築していくことも重要となる。

高校と企業との連携は、地域の将来を担う人材育成につながる。SDGsの推進や地域貢献活動を検討している企業には、その具体策として高校との連携を考えてみてほしい。

(文責:一般財団法人静岡経済研究所 玉置実)

日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ①複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ②他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】**
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)